



保健医療学部 学部長  
教授 片寄 正樹  
Katayose Masaki

【学部長】札幌医科大学で学生生活を過ごす中で、どんなところに本学の良さを感じていますか？

【名張】本学の特徴である少人数教育に魅力を感じています。授業での演習やグループ学習等を通して、これまで関わる事がなかった同期とも話す機会が多くあり、学年を増すごとに同期の団結力が深まってきたと思います。個性にあふれた仲間と過ごす日々はとても楽しく、安心できる暖かい環境で学習に励むことができます。



看護学科 第4学年  
名張 愛未  
Nahari Manami  
苫小牧東高等学校出身

【今野】学科の学生数が一学年20人と少なく、教員一人当たりの学生数が少ないのが特徴です。そのため、教員と学生の距離が近く、授業中だけでなく、質問や相談にも気軽にのってもらえる環境が整っています。少人数制ならではのアットホームな雰囲気の中で、一人ひとりの個性やペースに合わせた丁寧な指導を受けられることが良い点だと思います。

【山本】少人数教育であるため、同じ学科の学生との仲が深まりやすいところや、他学科の学生とも合同授業を通して交流を深めて自分の知らない知識を得ることができるところが本学の良さであると感じます。学科の仲が良いことから、実技試験では練習でお互いに改善点

などを伝えることで技術を高め合い、本番に臨むことができます。

## 本学で学んだこと

【学部長】本学でどんなことを学び、どんな成長ができたと思いますか。

【名張】個性のある看護を患者に安全に提供するためには、確実な知識・技術の習得が必要不可欠だということを学びました。臨地実習を通して、授業で学んだことを基にして、患者一人ひとりの異なるニーズに対する看護を考え実践していく中で、これまで学んできたことを実践に活かすことができたと実感し、成長を感じました。

【今野】疾患の特性や治療法などの専門知識だけではなく、その人が置かれている環境や価値観といった多様な要素を考慮する必要があることを学びました。日々の学習や実習を通して、物事を多角的な視点から捉え、複雑な問題に対しても適切な解決策を導き出す力を養うことができたと思います。

【山本】生活を送る上でどのような作業を重要だと感じているかは個人によって異なり、対象者一人ひとりに対して個別的な関わりをすることが重要であると学びました。講義でのグループワークを通して他者と意見交流をすることで自分にはない視点を得ることができていると思います。

## 研究の意義

【学部長】卒業論文についてどう思いますか。

【名張】卒業論文はこれまでの学びの中で抱いた疑問を追求し、妥当性のある答えを明らかにしていく過程だと考えます。将来働いてからも研究を通してよりよい看護実践につなげていく必要があるため、卒



理学療法学科 第4学年  
今野 寛也  
Konno Hiroya  
札幌北高等学校出身

業論文を通して研究の過程を学べることは自分の力になると思います。今後も先生方にご指導いただきながら、主体的に研究に取り組んでいきたいです。

【今野】学生生活の集大成であり、医療人としての第一歩を踏み出すためのものだと感じます。これは、単なる学業のまとめではなく、自ら課題を見つけ、解決策を模索し、その成果を世の中に発信するという、研究者としての基礎を養う貴重な機会です。医療人として常に最新の知識を学び続ける追求心を得るためにとても重要だと思います。

【山本】研究に必要な基本的スキルを身につけることができ、自分の興味がある特定のテーマに対して深く掘り下げることができるため、貴重な学びの機会であると感じています。研究を通して追求心を高めることで、臨床に出てからも様々な疑問から自身の学びに繋げていくことができると思います。

## 私たちが目指す、これからの地域医療

【学部長】目指すこれからの地域医療のありかたはどのようなもので

しょうか。

【名張】在院日数が短縮されている現在、人々が住み慣れた地域で安心して過ごせる社会を目指す必要があると考えます。一人ひとりの望む生活の実現のために、医療者は、入院中から退院後を見据えた生活者の視点を持つこと、介護や福祉の関係機関と連携して継続的な支援をしていくこと等の関わりがより一層求められると思います。

【今野】少子高齢化が進む現代において、地域に根ざした医療の重要性はますます高まっています。理学療法士は、専門的な知識と技術を活かし、地域住民の健康を支える重要な役割を担っています。地域包括ケアシステムの構築を推進し、誰もが安心して暮らせる社会の実現を目指すべきだと思います。

【山本】高齢化が進んでいる今日、地域住民の健康寿命を延ばすためには予防医療が重要であると講義で学びました。病気を予防するためには地域住民が健康に向けた取り組みを自ら行うことができる知識を得ることが求められます。そのため、私たち医療職はその知識を病院内に留めるのではなく、地域教室などを行い生活の場に広めていくことが重要であると考えます。



作業療法学科 第4学年  
山本 夢華  
Yamamoto Yumeka  
帯広柏葉高等学校出身